

# 呉共済病院 がん化学療法における悪心・嘔吐対策

がん種ごとのレジメン一覧には、悪心・嘔吐対策のうち、内服薬のみを記載しています。  
 院外処方箋にはday2からのアプレピタントカプセルやデカドロン錠4mg等が記載されますので、  
 お手数ですが処方の確認をよろしくお願いいたします。  
 ※ 血糖上昇やその他副作用、または、レジメンによっては下記の対応と異なる場合があります。

## 高度催吐性リスク

### (1) 標準対応

day	1	2	3	4
アプレピタントカプセル 125mg	1Cap			
パロノセトロン0.75mgバッグ	1袋			
デキサート注	9.9mg			
アプレピタントカプセル 80mg		1Cap	1Cap	
デカドロン錠4mg (2錠/2×MT)		2錠	2錠	2錠

### (2) 糖尿病がない場合

標準対応より変更可能

day	1	2	3	4
オランザピンOD錠 5mg	0.5～2錠	0.5～2錠	0.5～2錠	0.5～2錠
パロノセトロン0.75mgバッグ	1袋			
デキサート注	9.9mg			

### (3) (1)(2)で効果不十分の場合

day	1	2	3	4
オランザピンOD錠 5mg	0.5～2錠	0.5～2錠	0.5～2錠	0.5～2錠
アプレピタントカプセル 125mg	1Cap			
パロノセトロン0.75mgバッグ	1袋			
デキサート注	9.9mg			
アプレピタントカプセル 80mg		1Cap	1Cap	
デカドロン錠4mg (2錠/2×MT)		2錠	2錠	2錠

※ オランザピンは、  
糖尿病患者に禁忌

高齢者には  
0.5錠(2.5mg)から開始

## 中等度催吐性リスク(① 高)

### (1) 標準対応

day	1	2	3	4
アプレピタントカプセル 125mg	1Cap			
グラニセトロン1mgバッグ	1袋			
デキサート注	4.95mg			
アプレピタントカプセル 80mg		1Cap	1Cap	

### (2) アプレピタントの使用が難しい場合 (例:内服困難、アプレピタントとの相互作用が問題となる場合等)

day	1	2	3	4
パロノセトロン0.75mgバッグ	1袋			
デキサート注	9.9mg			

## 中等度催吐性リスク(② 低)

day	1	2	3	4
グラニセトロン1mgバッグ	1袋			
デキサート注	9.9mg			
デカドロン錠4mg (2錠/2×MT)		2錠	2錠	

高度～最小度催吐性リスクの  
いずれにおいても 必要に応じて、  
H<sub>2</sub>ブロッカーやPPIをday1より  
追加可能

## 軽度催吐性リスク

day	1	2	3	4
デキサート注	6.6mg			

予測性の悪心・嘔吐に対しては、  
アルプラゾラム錠0.4mg 1錠を  
day0夜より8時間毎に内服  
(day3～4まで)

## 最小度催吐性リスク

day	1	2	3	4
なし				